

を繰り返した。経過より、誤飲性肺炎を疑ったが諸検査にて異常を認めなかった。この頃より口腔内に胆汁様分泌物を認めるようになり、 ^{99m}Tc -PMT による胆道シンチを施行した。10 分像にて肝中央上縁より正中を上方向に異常排泄像を認め、30 分像にて 2 気管分岐部と思われる逆 V 字状の像が得られた。手術にて、肝中央上縁より食道前方に沿って走る径 7 mm の fistel が気管分岐部右側に開口しているのが認められ、胆道シンチグラムの所見と一致した。

先天性気管胆道瘻はまれな先天性の奇型で、現在までに 8 例の報告があり、その診断は全例気管支造影気管支鏡にてなされている。

今回、われわれのように、胆道シンチグラムにて確診し得たのは最初の症例と思われ、報告した。

46. ^{99m}Tc -Sn コロイド肝シンチグラフィーにおける腎描出例

金川 公夫	杉村 和朗	田中 豊
橋本今日子	山崎 克人	石堂 伸夫
浜田 俊彦	松井 律夫	鍋嶋 康司
末松 徹	橋林 勇	西山 章次

(神大・放)

われわれは ^{99m}Tc -Sn-コロイド肝シンチグラフィーにて腎描出を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。

症例は 37 歳男性で、昭和 56 年 11 月頃より徐々に進行する易疲労性、労作性呼吸困難のため、昭和 59 年 1 月、心不全の診断にて当院第一内科に入院した。肝シンチグラフィーを施行したところ、腎描出を見た。free $^{99m}\text{TcO}_4^-$ の存在を否定するため、2 週間後再度施行したが、同様の所見を得た。また両日の他の症例では腎描出を認めなかった。

腎描出の原因としては、I. free $^{99m}\text{TcO}_4^-$ の存在、II. RES 細胞の migration 説、III. 近位尿細管の phagocytosis 説、IV. 尿中排泄説が報告されている。今回、本患者と 3 例の control 群との RI 尿中排泄率を調べたところ、両者 (control 群の 1 例を除く) には有意な差を認められなかった。以上 I, IV の説は前述した理由により否定的と考えられる。II または III の説である可能性が高いと思われるが、両者とも現時点では仮説であり、今回はその原因を明らかにできなかった。

47. うっ血性脾腫における骨髄 Scintigram 上の末梢伸展 Pattern の解析

高橋 豊	駒木 拓行	宮本 忠彦
石原 明		(天理病院・RI)
赤坂 清司		(同・血液内)

〔目的〕 ^{99m}Tc -S-collod 法による骨髄 scintigraphy により造血の場としての活性髄の全身性分布状況を、特発性門脈圧亢進症 (IPH) 33 例、巨脾性肝硬変症 (LC) 25 例を対象に観察し、Ferrokinesics による赤血球産生の定量的指標と、関連要因としての赤血球寿命の測定結果と比較検討した。

〔方法〕 既報のごとく骨髄 scintigraphy を ^{99m}Tc -S-collod 用い、局所 spot 法で、症例により一行走査全身撮影法を併用して行った。Ferrokinesics は、Huff 法に準じ、PIT は mg/d/m^3 blood volume で表わした。 ^{51}Cr -RBC の混和平衡後の初期減少勾配、 λ_d を赤血球破壊 (喪失) 速度の指標とした。活性髄分布の体幹中心部から四肢末梢へ伸展拡大する程度を、0 (縮小)、I (正常域)、II (上腕・大腿近位 2/3)、III (肘・膝関節近傍)、IV (手・足関節近傍) の 5 段階に、また、長管状骨両端付近の pattern を、Epiphysis, Metaphysis 各部に注目して、O 型、IM (中間) 型、M 型、EM 型、E 型の 5 型にそれぞれ分類整理した。

〔結果と考察〕 IPH, LC とも grade II~III, IM~M 型が大多数を占め、正常対照と慢性溶血性貧血の中間から後者寄りに位置し、“造血の場”の欠落・減少の所見はみられなかった。PIT との相関性は、IPH 群で伸展の grade、長管状骨近位および遠位端の pattern において有意で、重回帰法による全体としての相関性は $R=0.72$ (IPH), 0.64 (LC) であった。一方、 λ_d の増加に対応する PIT の増加は、両群とも、鉄欠乏、非欠乏の別なく不十分であった。

〔結論〕 以上の分析結果より、 ^{99m}Tc -S-coll. で image 化される活性髄の全身性分布状況に、うっ血性脾腫例では不足状態は認められず、出現する貧血は鉄欠乏要因を別にしても、出血や破壊の亢進に対する代償不全の様相をおびるものと解された。